ISSN 1347-5142

小鹿野町　河原沢のオヒナゲエ風景（八木橋信吉氏提供）

かわはく No.22

CONTENTS

第２回テーマ展「ヒトガタ流しと埼玉の雛人形」……2
かわはくの展示から「寄居町末野遺跡の石器」……3
ボランティア、新規募集！……3
博学連携の活動報告（まとめ）……4
電子顕微鏡の世界(3)～ソメイヨシノの花粉……5
川辺の生き物百科No.10「ハリエンジュ」……5
川の思い出(2)……6
かわはくを支える人たちV……6
身近な水紀行「別所沼今昔」……7
かわはくで学ぼう……8

さいたま川の博物館
SAITAMA MUSEUM OF RIVERS

平成１６年度第２回テーマ展

ヒトガタ流しと埼玉の雛人形

開催期間　平成17年３月19日～６月26日

近年は、華やかになる一方の雛祭りですが、その大本をたどってみると、ヒトガタ流しに行き着きます。

一年間に身体にたまった厄やけがれなどを白い和紙を人間の形に切ったもの（形代（かたしろ）もしくはヒトガタといいます）に移して、祝詞などを奏上して祓った後で、川に流したりお焚き上げをしたりして身を浄めることを大祓（おおはらえ）といいます。環境問題の高まりとともに、川に流すことは少なくなり焼却されるケースが増えていますが、本来の姿は流水の持っている浄化性に期待して、住居のそばの身近な川に流すというものです。

大祓のなかでも、６月の晦日に行われるものを水無月祓と呼んで、神社によっては茅の輪くぐりを行うところもあります。身体に変調をきたしやすい夏を無事に乗り切るために、厄やけがれを落として再生した身体にしようとするものです。

ヒトガタは、地域を司っている神社から配られるものですが、神社によってさまざまな形があります。最近では交通事故の増加に伴い、自動車の形をした形代も見られるようになりました。

今回の展示では、兵庫県香寺町にある日本玩具博物館のご厚意により、同館が秘蔵している大正期から昭和初期の『ヒトガタ』コレクション（尾崎清次氏収集の民間信仰習俗資料群）を借用できたので、戦前期からの素朴な庶民信仰の一端に触れることができるようになりました。

埼玉県小鹿野町河原沢（かわらさわ）・群馬県上野村乙父（おっち）・長野県北相木村に、子供達が河原に石積みを築いて、お雛様を飾り、協同してお粥やお汁粉を作って食べるという行事が伝えられています。これらは現在では子供の数が減ってきたので、３月３日もしくは４月３日に大人がかなりの部分を手伝って行われていますが、埼玉県の鴻巣で主に作られたといわれる“裃雛（かみしも）”が河原に供えられることが多く、内裏雛が登場してくるのは最近の傾向です。北相木村では、「カナンバレ」と呼ばれていて、以前は実際にこわれかけた古い雛人形を供養の意味で川に流していたと言います。

河原沢では「オヒナゲエ」、乙父では「オヒナガユ」と呼んでいますが、河原沢に住む古老の言い伝えでは「古くは雛を川に流していた」とされているので、「流し雛」の習俗に上州地方に多かった「野遊び」（子供達が早春に野山に出て協同して作業をしたあとで遊ぶこと）が合体した形が本来の姿であったと思われます。

今回のテーマ展は、第１部でヒトガタ流しとおひながゆを含む流し雛、第２部で埼玉の雛人形という展示構成で行いますが、第２部では、通常見られるような段飾り雛は少なくして、御殿飾りや裃雛・押し絵雛など珍しいものや享保雛などを中心に展示する予定です。

（展示担当　針谷浩一）

（「湯島神社のヒトガタ」・日本玩具博物館提供）

（「河原沢のオヒナゲエ」・小鹿野町教育委員会提供）

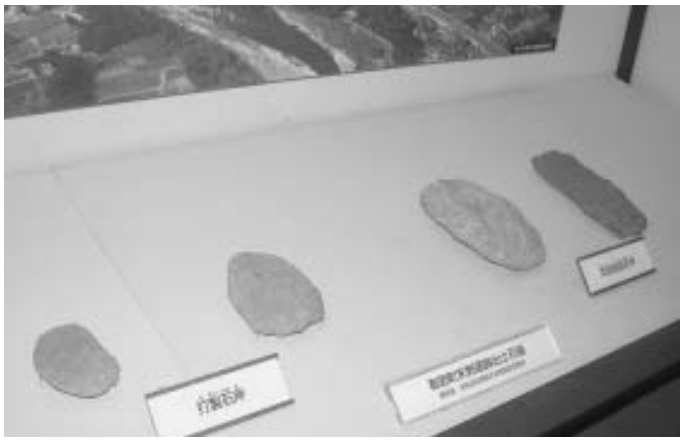
～かわはくの展示から～

寄居町末野遺跡の石器

群馬県岩宿遺跡は、恐らく考古学上で最も有名な遺跡と言えるでしょう。昭和21年に故相沢忠洋氏によって発見された岩宿遺跡は、日本にも１万年を遡る旧石器時代に人々が生活していたことを明らかとし、日本歴史を塗り替える大発見として教科書にも取り上げられているからです。

ところで、この岩宿遺跡から出土した石器と全く同じものが、さいたま川の博物館のある寄居町の末野から出土しています。末野遺跡と名付けられたこの場所からは、約３万年前の地層の中から、楕円形をした大型の石斧４点を始めとした石器群が発見されました。当時は比較的温暖で、ナウマン象やオオツノ鹿などといった、現在では見られない動物もたくさん住んでいました。末野遺跡に住んだ人々は、石斧や槍などを使って、それらの大型の動物に立ち向かっていたのかも知れません。

（展示担当　栗島　義明）



ボランティア、新規募集！

当館の屋外展示のひとつに、「荒川大模型173」という1000分の1の立体模型があります。これまで当館のボランティアの方にも、この模型の解説をお願いしてきました。荒川の源流から河口まで、20分ほどで個性豊かにガイドしていただくというものです。

新年度からは、その活動内容をより幅広いものにすることで、県民の皆様の参加を募ることになりました。「荒川大模型173」の解説はもちろんのこと、「渓流観察窓」という小さな水族館の解説、そばを流れる荒川や敷地内を流れる小川を利用した活動、児童生徒の体験学習へのお手伝い、各種イベントへの参加、花壇や庭木の管理と解説等々、さまざまなプログラムを用意してあります。

参加の仕方は、これらのうちの一つでも複数でもかまいません。興味あるもの、やってみたいものがありましたら、気軽にお申し込みください。報酬や交通費などの支給はできませんが、館の施設や博物館がもっているいろいろな情報は積極的にご利用することができます。

募集定員は約30名、高校生以上とします。**ご希望の方は当館教育普及担当（☎048－581－8739）にお電話のうえ、下記の説明会にお越しください。**

〈ボランティア説明会〉

・日時：５月15日（日）10：00～12：00

・場所：当館講座室

川や水に興味のある方、魚・植物・水生生物などに関心のある方、子どもと一緒に活動してみたい方、博物館について知りたい方、そして何かやってみたいという方を「川博」はお待ちしています。

（教育普及担当）

博学連携の活動報告（まとめ） 博学連携事業

今年度博物館と学校との連携を今まで以上に深めていくため博学連携チーム（スタッフ３名）を編成し、具体的な対策を練って活動してきました。ホームページへの学校支援コーナーの新設、受付方法の改善をはじめ、多くの学校に川博の取組を知ってもらい、有効に活用していただくための情報発信や体験学習の内容の工夫を図ってきました。お陰様で受入総数だけを取り上げても前年度比1.5倍にもなりました。その成果の一端をご紹介したいと思います。

１　本年度の学校受入結果

〇館での体験学習

47校51件（30校31件）：前年度比1.6倍

〇出張授業

６校17件（７校 ７件）：前年度比2.4倍

〇来館相談対応

35校38件（18校24件）：前年度比1.6倍

（　）は平成15年度

２　体験学習プログラムの実践

当館では体験学習プログラムを11コース用意しています。これをもとに「小中学校の総合的な学習の時間」「中学校選択理科」において様々な体験学習を実施しております。以下にその内容の一部を紹介します。

(1) 小中学校総合的な学習の時間

体験学習プログラム２「水生生物による水質判定」は、当館での体験学習の代表として、多くの学校で利用されています。水生生物を観察することにより、水質についての調べ学習ができることに気付かせるねらいを持っています。簡単な方法説明後、水生生物の採集と観察から水質の判定という過程を通して、児童生徒に川に親しめると好評を得ています。児童生徒の発達段階に応じて内容を変更して、対応にも工夫をしています。詳細は、ホームページ学校支援コーナーをご覧ください。

(2)中学校選択理科における実践

中学校選択理科において「水の不思議さ、大切さを体感しよう」という講座を実施しました。水の科学的性質を取り上げた観察・実験を通して「水の不思議さ」を体感させ、水への関心を高め、さらに河川の浄化や水循環保全への認識を高めることをねらいとしました。実践したプログラムは以下の通りです。

〇 表面張力の不思議

〇 細いすきまを上る水

〇 すがたを変える忍者「水」

〇 何でも溶かす？！不思議な液体「水」

〇 川と環境

参加した生徒の皆さんからは次のような感想をいただくことができました。

・いろいろな不思議がわかって、勉強になったし面白かった。（２年生男子）

・あらためて水の大切さを実感することができた。実験をいろいろして、水という液体について深く知ることができて面白かった。（３年生女子）

・もっと川を大切にきれいにしたいと思った。

また、事前と事後に行ったアンケート調査では、講座の実践により、水の不思議さについての認識を高めるとともに「一人一人の心がけで川の水質はよくなる。」といった河川浄化への意識を高めることができ、その効果が明らかになりました。

今後は、体験学習プログラムと児童生徒の皆さんとの関連について、具体的な評価をしていき、より質の高い博学連携事業を目指していきます。

（教育普及担当　博学連携チーム）

電子顕微鏡の世界 (3)

～ソメイヨシノの花粉～

毎年、春の声が聞こえると一斉に咲くソメイヨシノ。その花粉の表面構造を走査型電子顕微鏡(Scanning Electron Microscope略称SEM)で観察しました。写真１は花粉を横長においた様子を、写真２は縦長におき、上から見た様子を示しています。写真１の矢印で示したように表面に深くて長い溝がみられます。写真１では溝は２つだけしかみえませんが、写真２を見ると、溝は３つあることがはっきりとわかります。これは、サクラなどバラ科植物の花粉に共通に見られる特徴です。この溝は、花粉から出る花粉管という管の出口の構造の一つです。また、表面を見ると美しい指紋状の紋様があるのがわかります。この紋様は、サクラのなかまの花粉に共通に見られます。

サクラのなかまは、一般的に花粉を同じ樹に咲いた花の雌しべにつけても実を結ばないという性質を持っています。そのため、オオシマザクラとエドヒガンザクラを掛け合わせて人工的に作られたといわれるソメイヨシノでは、最初の一本から実を結ばせ、種子をとることは不可能でした。その結果、ソメイヨシノは接ぎ木や挿し木という方法で全国各地に広がっていきました。このことから、ソメイヨシノは同じ遺伝子をもつクローン植物であることがわかります。そのため、気候などの条件が揃えば、同時期に一斉に開花し、花見には最適のサクラとなっているのです。

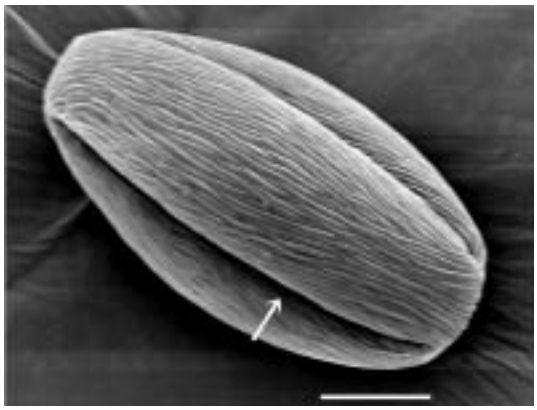


写真１　撮影倍率2000倍　スケール10μm

写真２　撮影倍率3500倍　スケール5μm

（教育普及担当　関根光男）

川辺の生き物百科 No.10

ハリエンジュ
Robinia pseudoacacia L.
（マメ科）

ニセアカシアともいいます。一般にアカシアと呼ばれますが、本物のアカシアは異なる植物です。ゴールデンウィークの頃、白色で甘い香りのする花をつけます。ハリエンジュは、北アメリカ原産の樹木で、日本では明治の初めに持ち込まれ、庭木、街路樹、砂防林などとして広く植えられました。また、養蜂家の重要な蜜源植物でもあります。現在、河原や川岸などで野生化し、川の代表的な帰化植物となっています。砂防工事用に植えられたものが、各地に広がったといわれています。ハリエンジュは、根に根粒菌という空中の養分を固定できるバクテリアを持っています。それで、養分の少ない砂れき河原などに入り込み、林をつくってしまいます。そのため、カワラハハコ、カワラサイコなど、砂れき河原特有の植物が絶滅の危機に追いやられてしまいます。

川の博物館では、自然観察場（臨時駐車場）や荒川川岸にたくさんあります。何ともいえない甘い香りの正体を観察してみませんか。

（教育普及担当　寺尾好夫）

川の想い出(2)

館　長　梅沢　太久夫

戦後何もない時代の事であるが、夏休み前になると、子供たちは地域の川の中に、水遊び場をつくり、そこをベースに一夏を過ごす。この水遊び場の作りは、中学生の高学年の子供（その地域の最年長グループ）から、「何月何日の日曜日に、どこそこで水遊び場を作るから、麦藁１束と道具を持って集合」という沙汰がある。この沙汰はいつも通学班による登校時に伝えられるから、全員に徹底した。その水遊び場で遊びたい子供は、１年生からは、指示された物を持参し、上級生の指示に従って、川の中に２重に石を積み、間に麦藁と砂を入れて堰き止め、背丈ほどの深さ以上の深みを持つ水遊び場を１日がかりで作りあげた。これに参加しない子供は、そこで一夏自由に遊べないという厳しい約束毎（一種の規範）であった。しかし、そこでは上級生たちが下級生の面倒をみて、泳ぎや、魚の捕り方などを教えてくれるから、夏の子供たちにとっては、必要不可欠な場所であったと言えよう。川の水遊び場はこれだけではないから、全く泳げないというものでは無かったが、〇〇淵などといわれる自然の深みは危険なところで、小学生では危険で遊べない。また、異なる地点を堰き止めるには力不足でできず、狭い川の中では適地さえ確保するのさえ難しかった。そして、水車堰や用水堰は、強い流れがあって危険として認識していたのだろう、水遊び場とした記憶は無い。子供たちは遊びの中でそれらの約束事を通じて、社会性が養われ、上級生の仕草や、作業を通じていろいろな知識を得、集団生活を送る上で必要な最小限の規範や、潜在的危険からの回避を学び、成長したのだなという思い出がある。

かわはくを支える人たち Ⅴ

今回は、開館以来、レストハウス１階で博物館を支えてきたミュージアムショップ『コパン』で働く方々の紹介をします。フランス語で友達や仲間という意味を表すコパンでは、初雁店長さんをはじめとして、11名の方が交代で勤めています。社会福祉法人はぐくむ会との連携により、博物館機能に“福祉”の持っている温かみやふれあいを包含し、商品の販売のみにとどまらず、お客様との積極的な語らいの場になっています。

今回はお店の方に日頃感じていることを語っていただきました。

Q　どんな工夫をして仕事をしていますか？

A　単なる商品の販売ではなく、博物館の活動趣旨にそった商品を開発し、品質の高い商品を陳列し販売するよう努めています。また、お客様と職場で働く障害者との自然な交流が図れるよう従業員の指導にも当たっています。

Q　仕事のやりがいはなんですか？

A　店を運営していく中で、一番良かったと思うことは、お客様とのコミュニケーションがとれることです。年齢差を越えてのふれあいを通して、対話の仕方を学んだり、新たな知識を増やせたり充実した仕事をさせて頂いています。

お話しを聞く中で、コパン（仲間）の名称の通り、博物館の一角として、お客様との語らいや思い出づくりの重要な役割を果して頂いているという感想を持ちました。

（教育普及担当　福島　智）

身近な水紀行

別所沼今昔

今はさいたま市になっている、旧浦和市の県庁から県道浦和志木線を１㎞ほど西へ行くと埼玉大学付属中学校があり、坂を降りた所に別所沼公園があります。今は沼の脇に大きなメタセコイアの林があり、沼の周囲はトリムコースになって、朝夕はウォーキングやランニングを楽しむ人が行き交っています。ただ、沼の静かなたたずまいは40数年前と変わっていません。

更に20数年前、昭和12年のこと。近くの埼玉大学付属小学校の吉沢先生という方が、「別所沼から流れ出した小川はどこへ行くのだろう」と受け持ちのクラスの子どもたちと小川をたどって行くと、「一本杉」と呼ばれる芦の茂る小さな沼があり、その先はいくつもの細い流れになって田んぼの中へ流れ込んで消えてしまった。別所沼の水はその南側に広がる田んぼを潤す大事な農業用水だったのです。

また、これは私が小学生の頃、近所のおばさんから聞いた話ですが、別所沼は湧き水だから水が冷たくて、中は藻がいっぱい生えているから子どもが沼で溺れそうになって助けるのに大変だったということです。

40数年前の別所沼は北側に牛舎があって牛が飼われていました。また、西側の高台は稲荷台と呼ばれていて、松林になっており、私たちの大事な遊び場でした。沼の入口のお菓子屋さんの息子のＯ君やＢ君達と荒れ地の急斜面を登り、滑ったり転がったり、暗くなるまで遊んだものでした。小学校５・６年生の頃だったか、公園を整備するために、沼の周りに杭を打って泥を運び込む工事が始まり、県道から線路が敷かれ、小さなトロッコが置かれました。昼間は作業員のおじさんたちが汗を拭き拭きトロッコを押して土を運んでいました。夕方になって暗くなり、誰もいなくなると、私たちはトロッコを県道まで押し上げては飛び乗って沼の所までゴーっと一気に下って遊んだものでした。その頃は別所沼の西から南の低いところは一面の田んぼでした。「一本杉」のところは昼間もしーんとして不気味な怖いところで子どもは近寄りませんでした。

現在の整備された別所沼

45年前の別所沼風景

沼の西に木造の２階建ての県立美術館が建てられた頃から、公園の整備が進み、今はあの一本杉も田んぼも皆、埋め立てられて住宅街となり、稲荷台は家や銀行の研修所になって、別所沼は周囲にメタセコイアの木が植えられてきれいな公園となり、市民の憩いの場となっています。（別所沼の水が灌漑用水だった話は、浦和市尾間木公民館長の青木義脩氏からお教え頂いた「うらわ文化」浦和市郷土文化会昭和41年１月10日発行掲載の「まんじゃらこさま」吉沢光平著による。）

（展示・教育普及担当　大和　修）

4月

3/19/土~6/26/日
第2回テーマ展「ヒトガタ流しと埼玉の雛人形」

9/土 サタデーミュージアム「砂絵をつくろう」
時間：①10:30～12:00 ②14:00～15:30　定員：32人　☎

16/土 野外教室「荒川を歩く」
時間：9:30～15:30
集合：JR武蔵野線西浦和駅
定員：50人（申込順）費用：100円（保険料）
内容：サクラソウ自生地から彩湖、戸田公園まで歩いて観察　☎

17/日 映画会「トムソーヤの冒険―あこがれの蒸気船―」(27分)
時間：①13:30～　②14:30～　定員：80人

23/土 サタデーミュージアム「春の押し花カードをつくろう」
時間：①10:30～12:00 ②14:00～15:30　定員：32人　☎

29/金 荒川劇場「川と太鼓」
時間：①11:00～ ②13:30～　出演：乾武神流川太鼓（上里町）

30/土 荒川劇場「川と獅子舞」
時間：①11:00～
②13:30～
出演：黒田ささら
獅子舞保存会
（花園町）

5月

8/日 講演会「南極の氷をみる・きく・さわる」
時間：10:30～11:10　講師：佐久間沢樹氏
（海上自衛隊砕氷艦「しらせ」航海科所属）
演題：「南極への航路」　対象：小・中学生とその保護者（定員80人　申込順）

14/土 サタデーミュージアム「ストーンペインティング」
時間：①10:30～12:00 ②14:00～15:30　定員：32人　☎

15/日 ボランティア説明会
時間：10:00～12:00　☎
内容：ボランティア希望者への概要説明

21/土 親子で野外体験「秩父湖と栃本集落を訪ねる」
時間：8:00～17:30（バス利用）　集合：寄居駅北口
内容：荒川の源流と山村集落を見学
定員：50人（5/1より受付）費用：100円（保険料）　☎

22/日 映画会「せんぼんまつばら」(90分)
時間：13:30～　定員：80人

28/土 サタデーミュージアム「竹で水鉄砲をつくろう」
時間：①10:30～12:00
②14:00～15:30
定員：32人
費用：100円

かわはくで学ぼう!!　イベント情報コーナー

6月

5/日 環境の日記念イベント
時間：①10:30～ ②13:30～
内容：荒川などの水質を調べる。

11/土 サタデーミュージアム「ストーンペインティング」
時間：①10:30～12:00 ②14:00～15:30　定員：32人　☎

18/土 映画会「花さかじいさん・ききみみずきん・ぶんぶくちゃがま」(30分)
時間：①13:30～　②14:30～　定員：80人

19/日 ボランティア研修会
時間：10:00～16:00　☎
内容：　ボランティア希望者対象の研修会

25/土 サタデーミュージアム「竹で水鉄砲をつくろう」
時間：①10:30～12:00 ②14:00～15:30　定員：32人
費用：100円　☎

7月

16/土～ 特別展「蘇る縄文人～自然と暮らした人々～」

3/日 川の日記念イベント
時間：①10:30～ ②13:30～
内容：七夕づくり

9/土 サタデーミュージアム「ストーンペインティング」
時間：①10:30～12:00 ②14:00～15:30　定員：32人　☎

16/土 サタデーミュージアム「竹で水鉄砲をつくろう」
時間：①10:30～12:00 ②14:00～15:30　定員：32人　費用：100円　☎

17/日 映画会「三ねん寝太郎」(43分)
時間：13:30～　定員：80人

23/土・24/日
子ども体験スクールI（自然史博物館連携事業）
時間：23日10:00～15:00　24日13:00～16:00
内容：川原の植物観察と標本づくり　定員：32人　費用：100円　☎（２４日は自然史博物館で実施）

30/土 子ども体験スクールII
時間：10:00～12:00/14:00～16:00
内容：伝統漁法体験（予備日8/27土）
定員：各50人　費用：100円　☎

31/日 講演会「縄文人の暮らし」
講師：阿部芳郎氏（明治大学助教授）
時間：13:30～15:00　定員：100人（申込順）

! 毎月第２・４土曜日10:30～と14:30～は「わくわくサタデーミュージアム」・毎月１回（土曜日または日曜日）13:30～は「映画会」が開かれます。最新の情報はかわはく情報等で紹介されます。

ホームページでも紹介しています！　http://www.river-museum.jp/index.htm

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。電話またはFAXでお申し込みください。③定員になりしだい締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

■編集・発行
さいたま川の博物館
〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園３９番地
TEL／048-581-8739(学芸)　FAX／048-581-7332
R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOY INK
彩の国さいたま
2005年３月25日発行